

令和6年度学校保健統計調査結果（高知県分）【概要】

1 発育状態

男女ともに身長・体重は横ばい傾向にあり、全国もほぼ同様の傾向となっている。

○身長

- ・男子は全年齢で全国平均を下回り、特に14歳(165.0cm)でその差が1.1cmと、最も大きい。
- ・女子は12、16歳を除く年齢で下回り、特に17歳(156.4cm)でその差が1.6cmと、最も大きい。

○体重

- ・男子は7、8、15～17歳で全国平均を上回り、特に15歳(59.8kg)でその差が0.8kgと、最も大きい。
- ・女子は7、8、10、12、15、16歳で全国平均を上回り、特に12歳(45.5kg)と16歳(53.1kg)でその差が1.1kgと、最も大きい。

2 肥満傾向児の出現率

男女ともにはおおむね横ばい傾向にあり、全国もほぼ同様の傾向となっている。

- ・男子は6～10、14、15歳で全国平均を上回り、特に8歳(13.00%)でその差が3.49ポイントと、最も大きい。
- ・女子は6～8、10～17歳で全国平均を上回り、特に11歳(15.68%)でその差が5.66ポイントと、最も大きい。

3 健康状態

(1) 裸眼視力1.0未満の割合はおおむね横ばい傾向にあり、全国も同様の傾向

令和6年度は、小学校、中学校、高等学校で全国平均を下回っているが、被患率は年齢が進むにつれて高くなっている。

(2) むし歯（う歯）の割合は減少傾向にあり、全国も同様の傾向

令和6年度は、幼稚園、小学校で全国平均を上回り、中学校、高等学校では下回っている。

○主な疾病・異常の被患率別

- ・幼稚園、小学校
「むし歯（う歯）」（幼稚園22.3%、小学校36.6%）の割合が最も高く、次いで、幼稚園は「歯列・咬合」（12.9%）、小学校は「裸眼視力1.0未満」（34.5%）の順となっている。
- ・中学校、高等学校
「裸眼視力1.0未満」（中学校53.1%、高等学校67.2%）の割合が最も高く、次いで「むし歯（う歯）」（中学校25.2%、高等学校32.4%）の順となっている。

○主な疾病・異常の被患率の対前年度比較

- ・「裸眼視力1.0未満」の割合は、小学校、中学校、高等学校で下回っている。
- ・「むし歯（う歯）」の割合は、全ての区分で前年度を下回っている。

○主な疾病・異常の被患率の対全国比較

- ・「裸眼視力1.0未満」の割合は、小学校、中学校、高等学校で下回っている。
- ・「むし歯（う歯）」の割合は、幼稚園、小学校で上回っているが、中学校、高等学校では下回っている。

■県教育委員会のコメント

肥満傾向やむし歯（う歯）、裸眼視力低下等の児童生徒等の健康課題については、社会環境の変化に伴う生活習慣の乱れ等の様々な要因が複合的に影響していると考えられる。今後も、学校における健康教育に継続的に取り組むとともに、保護者や関係機関、健康部局と連携を図りながら、望ましい生活習慣・運動習慣の定着に取り組んでいく。（担当課：保健体育課）